

見学者、語り部相次ぐ

今年も会館の見学者、語り部の希望が相次いでいます。全道の新婦人の皆さんが今年も会館を訪れています。原水禁大会参加の事前学習をする勤医労の皆さん、全国で取り組まれている反核平和の火リレーの皆さんは会館に寄って学習します。

北大の学生が「ミュージアムから戦争と平和を考える」演習の一環で会館を訪れ、被爆者の話、会館の果たしてきた役割などを聞き、様々な意見交換をしていきました。

コープさっぽろは 8 月にチカホでピースフォーラムを実施し、被爆者を呼んで話を聞きます。

札幌市の被爆者派遣事業は今年すでに 20 校余りがエントリーしています。

被爆体験を次の世代、若い世代にどう継承するか、ますます大事な年になりそうです。

被爆二世も語る

新婦人江別支部とえべつ原水協は今年も野幌公民館で恒例となった「平和展」を実施、その一環で 6 月 13 日、被爆二世の川去裕子さんと呼んで講演会を実施しました。

川去さんは「父の中の 13 歳のままの妹」と題し、原爆で妹を失った父の体験を通して原爆のむごさを語りました。後半は「語り継いでいく」というテーマで、江別で小学生が「はだしのゲン」を演劇で発表したこと、札幌南高校定時制の高校生が構成劇を上演する中で自らもつと若い世代にも伝えたいと発信していることを紹介しました。

核兵器廃絶のために、伝えていくこと、それぞれの場で発信していくことが一歩になるのではないかと話しました。大きな共感が寄せられました。

被爆者アンケートから

今年 3 月に実施した「被爆者アンケート」。会員・賛助会員・一般・新聞読者の被爆者から合計 33 通もの返事が返ってきました。現在内容を分析中です。皆さん、高齢に伴う悩みのほか、次のような記述もあります。いくつか紹介します。

- ・「もともと腰痛持ちなので冬の雪かきの時に腰の痛み、足のしびれ、背中痛み、体のふらつきがあつて大変。1 年 8 か月前胃ガンを手術、体重・筋肉不足、痛みが今も痛い。」
- ・(84 歳、広島被爆、男性)「前立腺がん、ウォーキングが出来ないほど疲れるので困っている。」
- ・(83 歳、長崎被爆、男性)「水晶体混濁による視機能障害、糖尿病。将来、日本、世界平和只々望む。」
- ・(82 歳、広島被爆、男性)「関節リウマチ、掌蹠膿疱症、硬膜動静脈瘻、腎尿

管結石。足が弱っているので外出はひかえています。」

(82 歳、広島被爆、女性)

コラム

NPT 条約再検討会議

核拡散防止条約(NPT)の運用状況を 5 年に一度点検する再検討会議は、成果文書を採択できずに終了、残念です。でも核軍縮を進めるといふ条約の枠組みはかろうじて維持されたのです。

日本被団協は国連ロビーで原爆展を実施し、生協連、原水協、原水禁とともにニューヨークでシンポジウム、デモンストレーション、核兵器の非人道性を広く訴えました。しかし日本政府は首相も外相も参加しませんでした。唯一の戦争被爆国日本ならではの発信を期待していたのですが。

今年秋には核兵器禁止条約の締約国会議が開かれます。核禁条約には既に国連過半数の 99 か国が参加しています。日本もまずはオプザーバー参加を、そして条約の批准を！

「被爆の証言と原爆展」
今年は 8 月に

毎年 7 月の下旬に北海道庁 1 階ロビーの「自由広場」で行っていた「被爆の証言と原爆展」が抽選の結果、8 月 10 日と 12 日に行われることになりました。11 日は祝日のためお休みです。追悼会は例年通りです(チラシ参照)。

8 月 6 日【木曜日】

北海道原爆死没者追悼会

被爆者連絡センター主催

実行委員会共催

8 月 10 日・12 日【月・水】

被爆の証言と原爆展

被爆者連絡センター・

被爆二世プラスの会共催



昨年の追悼会風景